

第6回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成24年10月19日（金） 8：00－10：40

2. 場所：内閣府宇宙戦略室5階会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、松井委員長代理、青木委員、中須賀委員、山川委員、山崎委員

(2) 政府側

前原内閣府特命担当大臣（宇宙政策）、白内閣府副大臣、加賀谷内閣府大臣政務官、松山内閣府審議官、西本宇宙戦略室長、明野宇宙戦略室審議官 他

4. 議事要旨

議事の途中から前原大臣が参加され、以下のような挨拶があった。

- ・ 民主党政権として初代の宇宙開発担当大臣を務めさせていただいた。その際、有識者会議を設置し、ここにおられる松井委員、中須賀委員、山川委員もメンバーとして有意義な議論を頂いた。その結果が今に繋がっていると考えている。
- ・ 宇宙政策委員会では、既に平成25年度概算要求に当たっての指針となる宇宙開発利用に関する経費の見積りの方針を策定いただき、そのフォローアップを進めるとともに、新たな宇宙基本計画の策定に向けて、月2回のペースで精力的にご議論いただいていると聞いている。
- ・ 宇宙政策を推進するに当たっては、これまで主に夢や希望又は科学技術を目的として行ってきたが、日本の特徴は何かを問い直し、今後何をやるべきかを委員の方々にはご議論頂きたい。
- ・ 私も準天頂衛星システムをはじめとして宇宙政策を後押しさせてもらう。

冒頭、白副大臣から以下のような挨拶があった。

- ・ 宇宙政策委員会では、7月の発足以来、月2回のペースで開催され、平成25年度宇宙開発利用に関する経費の見積りの方針の策定とそのフォローアップを進めるとともに、新たな宇宙基本計画に関し精力的にご議論いただいております、厚く御礼申し上げます。
- ・ 宇宙政策委員会では、新たな宇宙基本計画は「宇宙の利用の拡大」と「自律性の確保」の2点を基本的な方針に据え、議論が進んでいると聞いている。
- ・ 自律性の確保のためには、確固とした産業基盤の維持が重要であり、そのためには宇宙産業の市場の拡大が必要である。
- ・ 我が国宇宙産業の市場拡大には、海外展開が不可欠であり、政府としてもパッケージ型インフラ輸出など積極的に支援して参りたいので、委員の皆様方におかれても、積極的なご議論をお願いしたい。

議事の途中から加賀谷政務官が参加され、以下のような挨拶があった。

- ・ 宇宙政策委員会では、既に平成25年度概算要求に当たっての指針となる宇宙開発利用に関する経費の見積りの方針を策定いただき、そのフォローアップを進めるとともに、新たな宇宙基本計画の策定に向けて、月2回のペースで精力的にご議論いただいていると聞いており、大変感謝申し上げます。
- ・ 私は、宇宙政策は、国際的な視野をもって、産業との関係も意識しながら、国家戦略として、積極的に進めるべきものと考えている。
- ・ 一方、厳しい財政事情の中、宇宙政策に関してもメリハリを如何につけるかが問われている。
- ・ 宇宙政策委員会では、新たな宇宙基本計画は「宇宙の利用の拡大」と「自律性の確保」の2点を基本的な方針に据え、議論が進んでいると聞いており、このような方向で新たなメリハリのある宇宙政策の在り方につき、ご提言いただければと考えている。

(1) 新たな宇宙基本計画に盛り込むべき事項

- ① 新たな宇宙基本計画に盛り込むべき事項（衛星測位、リモートセンシング、通信・放送）について
- ② 新たな宇宙基本計画に盛り込むべき事項（輸送システム）について
- ③ 新たな宇宙基本計画に盛り込むべき事項（宇宙利用の推進）について
- ④ 新たな宇宙基本計画に盛り込むべき事項（宇宙外交・安全保障）について
- ⑤ 新たな宇宙基本計画に盛り込むべき事項（パッケージ型インフラ海外展開）について
- ⑥ 宇宙産業基盤、宇宙産業振興、技術開発の現状、課題及び今後の検討の方向について
- ⑦ 宇宙科学・宇宙探査等の現状、課題及び今後の検討の方向について
- ⑧ 人材育成・宇宙教育の現状、課題及び今後の検討の方向について
- ⑨ 情報収集分析機能の強化の現状、課題及び今後の検討の方向について

上記の議題に関して、事務局から資料1～資料9について説明があり、本議題に対して、委員から以下のような意見があった。

- 準天頂衛星の開発・利用を進める上で、日本に研究・教育拠点を作るべき。
- リモートセンシングについて、ニーズに合わせて、大型から超小型まで、適切なサイズの検討が必要である。
- 輸送システムの検討に当っては、現状の競争力や産業基盤の状況を踏まえ、これまでの進め方について改めて評価して、今後の在り方を検討して行くべき。
- 宇宙の利用促進を進める上で、教育上の効果、技術のスピノフ、宇宙空間の利用、地上の課題解決などの人文科学としての活用など広範囲に検討すべき。また、人材の育成や研究拠点の整備も必要。
- 宇宙科学・宇宙探査について、JAXAの中のJSPECとISASの整理は、これま

でも議論してきているが、JAXAの組織としての評価も実施する必要があり、きちんと整理しておくべき。

- 情報収集については、国際機関の活用や、JAXAを活用しつつ、国内の大学など、人脈のネットワークを作り、戦略を作っていくという体制が必要である。

資料1～5については委員からの意見を踏まえ一部修正を事務局において加えることで了承された。また、資料6～9については、委員からの意見を踏まえ新たな宇宙基本計画に盛り込む事項として事務局でまとめ、次回議論することとなった。

(2) 文部科学省における宇宙分野の推進方策について<中間取りまとめ>のヒアリング

標記の中間取りまとめについて文部科学省からヒアリングを行った。

(3) 25年度宇宙予算の経費の見積り方針のフォローアップ

○関係省庁ヒアリング(文部科学省)

文部科学省が概算要求した以下の21事業についてヒアリングした。ヒアリング対象事業は以下の通り。

- ・平成25年度予算要求において10億円以上の事業
- ・平成25年度予算要求において10億円以下の事業で、特別重点枠及び重点枠のほか、新規に項目を立てて要求している事業
- ・次年度以降、新規に開発に着手する可能性のある大規模事業

(今回のヒアリング対象事業)

事業名	要求額(億円) 上段: 要求額 下段: 24年度予算	枠 ◎特別重点枠 ○重点枠
イプシロンロケット	82 (56)	
HTV-R	0.5 (0.5)	
日本実験棟「きぼう」の運用・科学研究等	141 (144)	
宇宙ステーション補給機(HTV)	244 (244)	
陸域観測技術衛星2号(ALOS-2)の衛星開発	146 (36)	○
陸域観測技術衛星3号(ALOS-3)の衛星開発	1 (1)	
温室効果ガス観測技術衛星後継機	4	◎

(GOSAT-2)の研究開発	(新規)	
気候変動観測衛星「GCOM-C」の衛星開発	28 (28)	○
全球降水観測/二周波降水レーダ(GPM/DPR)のセンサ開発	80 (36)	○
雲エアロゾル放射ミッション/雲プロファイリングレーダ(EarthCARE/CPR)のセンサ開発	17 (21)	○
軌道上衛星の運用(リモートセンシング)	29 (25)	
データ中継衛星「こだま」の継続確保	4 (3)	
次世代情報通信衛星	0.5 (新規)	
軌道上衛星の運用(通信)	13 (18)	
小型科学衛星シリーズ	26 (37)	
ASTRO-H	37 (37)	
小惑星探査機「はやぶさ2」開発	114 (30)	○
軌道上衛星の運用(科学)	17 (17)	
将来研究(先行・萌芽、将来輸送系、共通基盤技術)	16 (17)	
信頼性向上プログラム	71 (88)	
産業振興基盤強化	20 (21)	

以上